

---

# C グループ

---



特定非営利活動法人

# 東京労働安全衛生センター

Cグループ



さいたま市での武蔵大学との合同調査の様子

📍 東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル5階

☎ 03-3683-9765

📠 03-3683-9766

🔍 <http://www.metoshc.org>

👤 外山尚紀

## 活動名

2つの大震災から学び来るべき都市型地震に備えるアスベスト対策の提言と普及活動

## 助成活動紹介

阪神淡路大震災と東日本大震災の教訓から学び、1)熊本地震での石綿対策を進めます。2)都市型震災に備えて、自治体における①建物のアスベスト含有建材使用状況調査、②アスベスト含有建材の計画的除去、③地域防災計画にアスベスト対策を取り入れること、④防じんマスクの備蓄とマスクフィット研修を実施します。2)通常時のアスベスト対策として、①改正大気汚染防止法によるアスベスト対策の徹底と地方自治体の条例の制定促進、②住民参加によるリスクコミュニケーションの促進、③事業者と労働者へのアスベスト飛散、ばく露防止対策の教育研修活動の強化に取り組みます。

## 3年間の成果

東日本大震災被災地でのフォローアップ調査、全国での石綿含有建材のマッピング調査と取扱い状況調査を実施し、その結果をもとに自治体での震災に備える石綿対策の推進のため各地で住民参加型のシンポジウム等を開催しました。除去工事などでの住民によるリスクコミュニケーションによって対策を進めました。また熊本地震被災地の石綿調査を自治体と協力して進めました。

## 団体から一言

**担当者：外山尚紀**

地震が頻発する日本では、諸外国よりも一層厳重な石綿対策が求められますが、現実には課題が多く残されています。私たちは2つの大震災の経験を活かして石綿対策を住民、自治体と共に進めてきました。



## 連携・提携先






熊本学園大学、立命館大学、武蔵大学、ひょうご労働安全衛生センター、神奈川労災職業病センター、中皮腫・じん肺・アスベストセンター、中皮腫・アスベスト疾患患者と家族の会、建築物石綿含有建材調査者協会、仙台錦町診療所、石巻赤十字病院、エタニットによるアスベスト被害を考える会、福島県建設労働組合連合会、神戸大学大学院人文学研究科、愛知教育大学、社団法人東京都医療社会事業協会

## 情報求む！

露出した吹付け材、石綿対策について表示がない解体工事などは石綿を飛散させている可能性があります。ご相談ください。



2016年11月3日、広州ワークショップにて

-  東京都千代田区三崎町 2 - 1 4 - 6 TM水道橋ビル 4階
-  電話番号 03-5213-0461
-  FAX番号 03-5213-0461
-  ホームページURL  
<http://www.birdlife-asia.org>
-  問い合わせ担当者名  
シンバ・チャン

Cグループ

### 活動名

アジアの渡り性陸鳥の保全

### 助成活動紹介

アジア、特に日本では1990年代後半から陸鳥の減少が危惧されていましたが、各国の調査・保全状況の相違等から現状把握が困難な状況が続いてきました。本事業では情報不足を解消し、陸鳥のステータスを把握して効果的な保護を進めるため、事前調整を含む3回の国際会合（2015年3月韓国済州島、2016年3月香港、2016年11月広州）や、中国現地NGOの協力体制の構築を通じて、北東アジアの政府機関、学術研究機関及びNGOが参加する陸鳥のモニタリング・保護ネットワークの構築を進めてきました。

### 3年間の成果

中国・ロシア・韓国・日本の代表がモニタリングネットワークの構築に合意し、モニタリングシステムの制度設計を進めました。参加各国は、日本で長年行われてきた調査と同様に、野外モニタリングと標準化された標識調査法を進めることで合意しました。会合では同時に陸鳥保護のアクションプラン作成を開始し（日本の繁殖地が1箇所しか残っていないシマアオジをフラッグシップとした活動計画）、希少種の共同調査や密猟対策、普及教育について議論を進めています。

本事業を通じて構築した陸鳥保護とモニタリングのネットワークは、二国間の渡り鳥等保護条約・協定下の活動として位置づけられており、今後は四カ国の取り組みから、広州会合に参加したアジアの各国（モンゴル・ベトナム・カンボジア・タイ・ミャンマー・インド）へと拡充していく予定です。

#### 団体から一言

**担当者：主任研究員 シンバ・チャン**

北東アジア四カ国の協力は、簡単には進みませんでした。特にロシア・中国は広い国土に対して研究者も多くないですが、関係者は精力的に活動に取り組んでいます。広州の会合では将来の調査・保護・普及教育について活発な議論を行い、東南アジアを含



めた各国の参加者と、日本の30年間に及ぶ調査経験を共有できました。広くアジアの国々で日本のようにモニタリングが行われる日もそう遠くないと考えています。

### 連携・提携先

- ロシア：バース・ロシア、ロシア標識調査センター
- 中国：国家鳥類標識調査所、中国鳥類学会、中国各地の自然保護NGO（20団体以上）
- 韓国：国立生物資源館、ソウル大学
- 日本：山階鳥類研究所、日本野鳥の会、バード・リサーチ、北海道の地域NGO





# ニッポンバラタナゴ高安研究会



ニッポンバラタナゴの保護池における“ドビ流し”（池干し）

- 大阪府八尾市郡川4-28
- 072-943-5771
- 072-943-5771
- <http://n-baratanago.com>
- 松浦義彦

## 活動名

大阪産ニッポンバラタナゴ個体群を保全するための自然再生活動

## 助成活動紹介

- 1) ニッポンバラタナゴの生態調査と保護
- 2) ため池の伝統的な水浄化方法である“ドビ流し”の効果と生物多様性の保全
- 3) 小・中学校のビオトープ作りと環境教育
- 4) 河内木綿の材料となる和綿や八尾の特産物である枝豆の有機栽培とその商品化
- 5) ニッポンバラタナゴの保護池の水を利用して作った米(きんたい米)のブランド化

## 3年間の成果

- 1) 7つの保護池の改修および“ドビ流し”による生物多様性の保全
- 2) ニッポンバラタナゴ繁殖保護数(約6万尾)、ドブガイ繁殖保護数(約5000個体) イシガイの繁殖保護数(約700個体)を維持する
- 3) 有機栽培による和綿収穫量(総量80kg)、枝豆(10kg)、減農薬 きんたい米(約1t)

## 団体から一言

担当者：松浦義彦



ニッポンバラタナゴという淡水魚の保護活動は、その魚が生息する地元住民の力が最も大切だと痛感しています。やはり、文化遺産や史跡などを次世代に継承するのと同様に、ニッポンバラタナゴを地域の宝として、地域の人たちとともに保護したいと考えています。

## 連携・提携先

NPO法人自然と緑  
 大阪経済法科大学  
 清風学園生物部  
 環境アニメティッドやお  
 三重大学農学部資源生物学科  
 大阪府中部農と緑の総合センター  
 高安自然再生協議会  
 三井住友信託銀行

## 情報求む！

生物多様性の保全活動において、成功例の生物種や絶滅危惧種に関する情報をお願いします。

# (特) 自然回復を試みる会・ビオトープ孟子



トンボ類モニタリング調査

📍 海南市大野中995-2

☎ 073(484)5810

📠 073(484)5820

🔍 <http://mo-ko.jp/>

👤 有本 智

C  
グ  
ル  
ー  
プ

## 活動名

未来遺産登録地孟子不動谷トンボ相復活  
&人材育成事業

## 助成活動紹介

耕作放棄やイノシシ&アメリカザリガニ等移入種による食害により荒廃したトンボ相が貧弱になりつつあった当法人の活動拠点である和歌山県海南市孟子不動谷の稲作水系の整備（水辺ビオトープメンテナンス&耕作放棄地の湿地ビオトープ化）と大学生によるトンボ類モニタリング調査とそれ際してのトンボ調査スキルの育成事業を3か年に亘り行いました。

## 3年間の成果

水辺ビオトープの全面改修、無農薬水田の圃場整備、耕作放棄地の湿地ビオトープ化により、荒廃していた孟子不動谷の稲作水系の復元が行えました。その結果として、希少両生類のニホンアカガエルやカスミサンショウウオの産卵環境や、ベニイトトンボ、タバサナエ等の希少トンボ類のヤゴの育成環境の復活を実現することができるとともに、調査活動において若い調査員の育成も行えました。

## 団体から一言

担当者：有本 智

孟子不動谷の動植物のモニタリング調査及び、子ども達の環境学習のお手伝いを行っています。専門は鳥類ですがトンボも大好きです。今回大学生の皆さんと3年間楽しく有意義な調査活動を行うことができました。助成を戴いたことに心より感謝いたします。ありがとうございました。



## 連携・提携先

国立大学法人和歌山大学システム工学部  
和歌山県立自然博物館



# (公財)宍道湖・中海汽水湖研究所



水質改善が進まない宍道湖と対照的に、湖へ注ぐ山居川の水質は改善している。それを実感する市民による生きもの調査の様子。

- 島根県松江市袖師町99  
内藤ビル203
- 0852-21-8683
- 0852-21-8683
- <http://www1a.biglobe.ne.jp/kisuiiko/>
- 担当:山口啓子

汽水湖にふさわしい湖沼保全策の検証  
及びヤマトシジミ資源回復のための活  
動—宍道湖をモデルとした提案—

## 助成活動紹介

宍道湖を代表する生物、漁業資源であるヤマトシジミが危機的に減少してきたことをきっかけに、この現象と湖の環境保全対策の関係を捉えなおしてみる、とういのが基本的な活動背景である。具体的には①地域課題となったヤマトシジミの激減現象について、その回復策を検証する(本活動では、餌と底質の条件に注目した) ②指定湖沼制度以降に実施された宍道湖保全施策の効果を調査する③宍道湖に流入する河川で、市民と協働する調査を行う—を實踐中である。

## 3年間の成果

ヤマトシジミの資源回復の方策を探るなかで、地域に潜在する資源を活用し、低コストで有効な底質改善が見込まれることが実験上、明らかになった。私たちの団体が仲介役となり、水産業、地元大学、他地域の大学の知的資源が合わさり、問題解決に近づいている。

また、施策の検証作業からは、汽水湖特有の保全管理策の必要性を改めて確信した。「特有」とは、漁業・良好な景観や水質の両立がバランスをもって保たれる環境のことである。

## 団体から一言

### (公財)宍道湖・中海汽水湖研究所

私たちは、本助成活動に先立ち2010年～2013年に「森・川・湖を育むふるさとの流域づくりプロジェクト」活動を地球環境基金の助成を受けて実施しました。その時取り組みを始めた宍道湖流入河川の調査を発展させ、本活動でも継続しています。市民参加の生きもの調査結果も加え、川と繋がる湖双方を考える際の基調なデータが蓄積されています。

また、上記プロジェクトに共鳴した他県の専門家が、今回の活動では協働者として参加され、技術士ならではの発想で湖の底質改善やヤマトシジミの餌環境について、調査を担ってくださっています。

## 連携・提携先

島根大学生物資源学部  
島根大学教育学部  
信州大学山地教育センター  
宍道湖漁業協同組合  
乃木地区流出水対策協議会  
乃木小学校

## 情報求む！

川の生物調査等、環境学習の指導者を養成する計画がありますが、指導者を目指す人をどのように集めて養成講座を開いておられるのでしょうか。参考になる例をお教えてください。





特定非営利活動法人

# 有害化学物質削減ネットワーク



化学の基礎知識を学ぶ連続講座

📍 東京都江東区亀戸7-10-1Zビル4F

☎ 03-5627-7520

📠 03-5627-7540

🔍 <http://toxwatch.net>

👤 井上 啓

Cグループ

## 活動名

PRTRデータを活用した2020年目標達成に向けた化学物質管理のあり方の普及啓発活動

## 助成活動紹介

現状の化学物質の環境への排出や移動の実態(経年変化)を市民向けに解説し、2020年目標達成のために必要な化学物質管理の進め方について、市民生活レベルで取り組むべき課題を抽出し、解決策を提案、普及啓発する活動を行っている。家庭の中の有害化学物質の使用や環境への排出の現状をまとめ、水銀含有製品や、農薬など有害化学物質の家庭内の保有や廃棄の方法などの現状を調査し、2020年目標を達成するために市民生活の中で必要とされる有害化学物質対策についての政策提言をまとめる。

## 3年間の成果

PRTR制度開始直後と最近の工場の排出量の経年変化を解析し、増減の大きい事業者300社に対し、対策等についてアンケートを実施した。生協組合員を対象に、水銀含有製品や塗料、農薬など家庭内にある有害化学物質の量や廃棄の方法などアンケート調査を実施した。暮らしの中にある有害化学物質をどう管理、処分していくのかヒアリング調査を実施し、政策提言を作成中である。

### 団体から一言

**担当者：理事長 中地 重晴**

PRTR制度が開始されて15年が経過しました。環境中に排出される有害物質の量や排出源が分かりますが、市民の役に立っているとは言えません。PRTRデータを有効に活用する方法を広めていきたいと思えます。



## 連携・提携先

エコケミストリー研究会  
NPO法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議  
NPO法人東京労働安全衛生センター  
きれいな水といのちを守る全国連絡会  
せっけん運動ネットワーク

## 情報求む！

PRTR情報の活用事例



水質浄化のためのイカダづくりをする海外ボランティアと地域住民

- 〒040-0054 函館市元町14番1号
- 0138-22-0770
- 0138-22-0660
- www.hif.or.jp
- 池田 誠

### 活動名

外国人ボランティアと地域住民による  
大沼ラムサール地区の保全活動

### 助成活動紹介

ラムサールの3つの柱である「保全・再生」「交流・学習」「ワイズユース」の実現のために、海外ボランティアと共に行う環境保全活動、地元住民を巻き込んだ勉強会やシンポジウムの実施、更には地域の国際化、若者の定住化、まちづくりの活性化などの視点から活動を展開している。結果、これらの活動が、新しい産業を生み、雇用づくりにつながるように、行政や企業、地元の組織との連携の中で目標に向かっていっているところだ。

### 3年間の成果

大沼の水質浄化に関わる活動として、イカダづくりを3年間で600基制作、また森林保全活動として15haの下草狩りや、除伐などを行った。地域の人たちへ、ラムサールの意識付けを行うため、セミナーなどの実施のほか、大沼ラムサール会員を募集し、100名以上のお応援団を得ることができた。今後は、その成果を受けて、地域に大沼ラムサールの拠点づくりにまい進する。

#### 団体から一言

担当者：池田 誠

**大沼の魅力を女性目線で発信したい。**

大沼の自然環境や、畑や湖水がもたらす食の恵みを紹介し、その中で暮らし、生産活動に励む人たち。その人たちが、大切にしている場所や、とっておきの場所を、女性ならではの視点で発信してゆく。

活動を支えてくれるスポンサーも大募集中です！



### 連携・提携先

- 大沼ラムサール協議会
- 七飯町
- 大沼親交会
- 大沼コンベンション協会
- 大沼セミナーハウス
- 七飯町社会福祉協議会
- 日本国際ワークキャンプセンター (NICE)

### 情報求む！

ステイクホルダー間の合意形成に向けての根回しとして、「斜めから攻撃」「わからないふり作戦」「レシーブとことんプレイ」など様々な戦術を編み出す。是非、情報交換しましょう。



# 環境ネットワーク「虹」



1. 2歳児親子対象森のクノッペン教室

📍 福津市中央1丁目16-6-506  
☎ 090-5080-3581  
📠 0940-43-1706  
🔍 <http://knet-niji.jp>  
👤 佐伯美保

Cグループ

## 活動名

持続可能な社会づくりに向けた乳幼児期からの自然体験型の環境教育普及事業

## 助成活動紹介

乳幼児期から電子メディア接触が多く、自然体験が少ない今の子どもたちは、自然とのつながりを実感しにくく保全行動につながりにくい。環境教育等促進法に幼児期からの環境教育の推進が謳われているが実践は少ない。そこで持続可能な社会づくりと担い手の育成を目的に、乳幼児期から五感で自然に触れて体験的にエコロジーを学んで自然感覚を育むスウェーデンの環境教育プログラムの普及を目指している。養成講座でのリーダーの育成とステップアップ研修、森のムッレ教室等の環境教育プログラムの実践、園や地域での実践事例集の作成等に取り組んでいる。2016年度は普及に向けた森のムッレフォーラムも開催した。

## 3年間の成果

2016年10月までに4回の養成講座で計101人のリーダーを育成し、3回のステップアップ研修に計133人が参加、人的基盤づくりを進めることができた。森のムッレ教室等は4市町で108回開催、述べ2500人が参加した。また地域や幼稚園・保育園での実践事例集も作成し、配布した。これらを通じて5市町の園や団体を支援し、新たに3保育園と2幼稚園、3子育て支援団体で森のムッレ教室等の取り組みが始まり普及が進んだ。2016年の森のムッレフォーラムでは福津市、久山町、雲仙市の3保育園が事例発表をした。

## 団体から一言

担当者：佐伯美保

「子どもたちを自然の中へ！」  
持続可能な社会づくりとその担い手づくりに向け、豊かな自然感覚を育み未来を拓く乳幼児期からの体験型の環境教育「森のムッレ教育」の普及を更に進めていきたいと思っています。



## 連携・提携先

NPO法人ふくつ子どもステーションすてっぷ  
ふくま郷づくりの会子育て支援部会  
NPO法人福岡津屋崎子ども劇場  
NPO法人古賀新宮子ども劇場  
福岡教育大学附属幼稚園PTA  
(社)日本野外生活推進協会  
森のムッレ財団(スウェーデン)

## 協働相手求む！

子どもたちに豊かな自然感覚を育み、持続可能な未来を拓く「森のムッレ教育」に共に取り組んでいきませんか？ぜひお問い合わせください。